

学習成果レポートⅡ（帰国後報告） 2025 年度 1 期発

基本情報

留学先大学	イギリス・ブルネル大学				
留学制度	TESSⅡ	留学期間	半年	学科	英米語
履修コース	主に学部を履修（+語学科目を一部履修する場合も含む）				

学習面

授業理解度	問題なく理解できた
学習成果	後半は最後の課題を提出する時期でした。2000 字のエッセイを書く課題だったので、エッセイを書く力が身につきました。
目標達成度	達成できた
努力したこと、効果があった勉強方法、反省している点など	勉強をする環境を変えることや、早めに課題に取り組むことが効果的でした。

生活面

友人関係や生活の満足度	満足
その理由	友達との関係がより深まった。
中間報告からの変化	性格の合わない人と距離を置くことができた。
良かった点、特に配慮した点、反省した点など	自立したと感じました。普段は何かをするときに親に相談とかしてから行動するけど、留学をして一人で決めて行動しました。

学習成果レポートⅡ（帰国後報告） 2025 年度 1 期発

基本情報

留学先大学	オーストラリア・セントラルクイーンズランド大学				
留学制度	TESSⅡ	留学期間	1 年	学科	グローバルビジネス
履修コース	主に学部を履修（+語学科目を一部履修する場合も含む）				

学習面

授業理解度	何とか理解できた
学習成果	中間報告以降は学部を履修していたため、語学学習のための授業ではありませんでしたが、履修する過程で授業を聞いたり資料を読みレポートを書いたりしていたことで、結果的に英語力向上にもつながりました。帰国前の学期で履修していた四つの授業では、大学で対面で受ける講義はワークショップと呼ばれ、その他にも事前の録画を見るレクチャー、最終評価につながるアセスメントがそれぞれ二つずつありました。対面の講義では先生やクラスメイトと英語でコミュニケーションを取り、レクチャーとアセスメントは講義と独立して自力で進めなくてはならなかったため、講義前の予習、独立した課題に対する計画性が共に鍛えられました。
目標達成度	おそらく達成できた（スコア/成績未入手の場合など）
努力したこと、効果があった勉強方法、反省している点など	アカウンティングの授業では以前取得した簿記の検定での知識を英語にて再度学習することになりました。そのため専門用語を予習することでスムーズに会計の作業を覚えることができました。しかし実在する企業の財務諸表を分析しレポートを書く課題では、ウェブの記事から論文まで様々な文献を参考にしなくてはならなかったため、特に授業外で多くの時間を要し、アセスメント 1 は締め切りギリギリの土日で終わらせなくてはならなかったため計画的に進められなかったことを反省しました。そこでアセスメント 2 は 1 を提出した後すぐに着手したことで余裕をもって後半の授業に取り組めました。 マーケティングの授業ではオーストラリアのチョコレート菓子ブランド、ティムタムのインスタグラムでのマーケティング戦略を分析したり、地方のコーヒーショップ single O の新たな新規事業として、架空のアプリを既存のマーケティング戦略を元に提案したりしました。マーケティング理論を学ぶだけではなく、実在する企業を使った分析やその社員になったつもりでのアプリ開発はとても実践的で、想像以上に理論が身に付きました。

生活面

友人関係や生活の満足度	満足
その理由	限られた期間ではありましたが、クラスメイトやルームメイトとは良好な関係を築くことができました。授業外の時間には近所に住む姉家族と一緒にブリスベンやゴールドコーストを満喫したり、一人で料理や旅行などの趣味を楽しむこともできました。
中間報告からの変化	生活の中での気軽なコミュニケーションに慣れていったこともあって、緊張する場面が減りました。個人的にはそれが大きな変化で、細かい意見のすり合わせをルームメイトとできたときは特にうれしかったです。
良かった点、特に配慮した点、反省した点など	留学の目的の一つに、「大学卒業後国内外どちらで就職し暮らしていくのか、海外生活を通じて見極める」というものがあったのですが、結果的には日本で暮らしていきたいという結論に至りました。日本人として認識されながら生活する中で、文化や言語など今まで自分の属していたコミュニティへの理解も深まり、出発前より愛国心が強まることになりました。印象的だったのは人々の服装や美意識や周囲に対する関心で、多くの民族が混ざり合うオーストラリアでは統一された美意識や価値観があまり表面化せず、他人に対する関心が低いように感じました。気楽である反面、寂しくもありました。 ほぼ統一の民族や言語を維持し続けてきた日本という国では、慣習として良いとされるものや美の基準などが共通認識として存在すると思います。すれ違う赤の他人の事もうっすら監視し合えるような社会こそが、実は綺麗な街や礼儀正しい集団生活を作っていたのだと気づいてから、せっかくなら自分の生まれ属してきたコミュニティを守っていきたく考えるようになりました。

学習成果レポートⅡ（帰国後報告） 2025 年度 1 期発

基本情報

留学先大学	カナダ・モントリオール大学				
留学制度	TESSⅡ	留学期間	半年	学科	国際コミュ専攻
履修コース	主に学部を履修（+語学科目を一部履修する場合も含む）				

学習面

授業理解度	何とか理解できた
学習成果	授業で聞かれていることを返答したり、ノートを取りながら聞いているとわからないことも多いが、ノートを取らず、集中して聞いているとほとんど内容がわかるようになりました。期末テストも、中間テストの時のような作文のパートでの悲惨さはだいぶ和らいだと思います。
目標達成度	達成できた
努力したこと、効果があった勉強方法、反省している点など	前回のフォームで、言っていた方法を続けたことといきなり現地の人と流暢に喋ろうとせず、同じ移民同士で練習していく、または自分が流暢に喋れないということを理解してくれる人と練習していく方が会話の上達につながったと思います。

生活面

友人関係や生活の満足度	満足
その理由	学校外部の語学交流会などに積極的に参加して、前回のモントリオールでの留学よりもはるかに大きなコミュニティを作ることができたのと、研究での人集めの成果もあってか、現地民の方とも仲良くなれたため
中間報告からの変化	中間報告の時には、研究のために交友関係をできるだけ増やそうとしていたが、研究のためだけじゃない友達も増え、また今まで仲が良かった友達とカフェ・レストランにいく機会も増えました。
良かった点、特に配慮した点、反省した点など	前回のモントリオールに留学している時には、難しいことをできるだけ避けてなんとか生活をしていこうという感じでしたが、今回は、フランス語で指導教授の前で自分の研究を説明する・200 人の生徒の前で自分の研究で使うアンケートを答えてもらうように頼む・現地の大学院生の政治学についてのディスカッションに参加するなど自分が困難だと思っていることに関しても突き進まないといけない場面が多く、その旅に悔しい思いも経験しましたが、同じようなことに挑戦するハードルが少し下がったと思います。

学習成果レポートⅡ（帰国後報告） 2025 年度 1 期発

基本情報

留学先大学	ニュージーランド・リンカーン大学				
留学制度	TESSⅡ	留学期間	1 年	学科	世界教養
履修コース	主に学部を履修（+語学科目を一部履修する場合も含む）				

学習面

授業理解度	問題なく理解できた
学習成果	レポートやエッセイ課題が多かったことから、構成や執筆の際の表現の幅が広がったと同時に、情報収集の早さも身についたと感じている。文献を読んだり書いたりすることに時間がかかるため、効率よく課題を進めるために文献や情報の集め方を留学先の先生方にも教えていただき、工夫しながら学習をする力がついたと思う。
目標達成度	おそらく達成できた（スコア/成績未入手の場合など）
努力したこと、効果があった勉強方法、反省している点など	学部の全授業で A をとることと TOEIC で 800 点以上取るという二つを学習目標として定めた。履修していた授業すべてが課題による評価だったため、それぞれの課題提出日 3 週間前からエッセイの構成を考える、資料を集める、ドラフト完成日など細かく計画立てていた。課題の提出が重なることが多く、予定がずれてしまうこともあったが、余裕を持ちながら課題に取り組むことができ、勉強法として効果があったのではないと思う。一方で、TOEIC800 点以上取るという目標は、休日も課題に時間を割いていたためなかなか勉強時間を確保できなかった。しかし、学部での授業を通して、リスニング力は上がったと実感できるまでにはなったため、学部の授業や日々の会話の中で鍛えられたのではないと思う。

生活面

友人関係や生活の満足度	満足
その理由	授業以外の時間でも親しくなった友人と会話したり、課題のサポートをしあったりと充実した時間を過ごすことができたから。
中間報告からの変化	中間報告の時点では、語学コースにいたため英語を第二言語として話す人が多かった。その後学部での勉強が始まったため、それまではあまり関わらなかった人や他国の方とも大学内のイベントや授業で関わることでより幅広い人と関わりができたと思う。
良かった点、特に配慮した点、反省した点など	留学を通して、失敗を恐れずに行動をすることができるようになったと感じる。留学当初はホームステイ先の家族が話していることが聞き取れず、なんとなくで理解して行動していた。しかし、ルームメイトがいなく自分一人で行動しなければいけなかったため、わからなかったら何度も聞き返したり、伝わるまで話をしたりした。その結果、英語を理由にして諦めるのではなく、失敗を恐れずに行動をすることができるようになったと思う。

学習成果レポートⅡ（帰国後報告） 2025 年度 1 期発

基本情報

留学先大学	台湾・静宜大学				
留学制度	TESSⅡ	留学期間	半年	学科	中国語
履修コース	主に語学コースを履修（+学部科目を一部履修する場合も含む）				

学習面

授業理解度	問題なく理解できた
学習成果	繁体字がスラスラ書けるようになった。また、先生の仰っていることも以前より耳にスッと入ってくるようになった。会話力も伸び中国語を話すことが怖く無くなった。
目標達成度	おそらく達成できた（スコア/成績未入手の場合など）
努力したこと、効果があった勉強方法、反省している点など	授業はほとんど全て中国語で行われるため集中力を切らさないよう常に意識して授業に臨んだ。効果があった勉強方法は、やはり周りの人とにかく話すこと。様々な国籍の友達ができ一緒に授業を受ける中で、授業中ペアになって話す練習をする時や休み時間などに積極的に知っている表現や語彙を使ってなるべく長く話すよう努力した。

生活面

友人関係や生活の満足度	満足
その理由	日本語学科があることから日本語を勉強している現地の人と話す機会が多く、お互い教えながら語学力を伸ばすことができたため。また日本人留学生が比較的多く、同じ気持ちを共有できる友達と出会えたため。
中間報告からの変化	特に変化なし。
良かった点、特に配慮した点、反省した点など	留学に行く前は周りの目がとにかく気になり、間違えることが恥ずかしかった。しかし留学期間を通して台湾人の温かさに触れ、沢山助けてもらいだんだん間違いを恐れないようになっていった。私が中国語を話した時、上手く伝わらなくても間違えてしまっても何も恥じることはないと思えたことが大きな成長だと感じている。